

鳥インフルエンザ対策 ダチョウ (*Domestic Ostrich*)での取り組み

森泉さやか

(横浜市立野毛山動物園)

横浜市では、高病原性鳥インフルエンザ（以下 HPAI）対策として防疫対策指針を作成している。防疫対策指針に従い 2021 年度は、横浜市役所から半径 50km 圏内で HPAI が発生したため終日屋内収容となった。当園のダチョウ (*Domestic Ostrich*) は通常清掃や工事時に収容するのみで作業終了後も収容されることに慣れておらず、屋内収容の際に徘徊、柵突き、過度の食糞といった個体にとって望ましくない行動が確認された。2022 年は防疫対策指針の改訂に伴い、防鳥ネットを設置して野鳥との接触を防止することで、横浜市役所から半径 10km 圏内もしくは横浜市内で発生が見られるまで放飼が可能となった。発生状況によっては、屋内収容も起こりえるため、環境の改善を行い、望ましくない行動の減少を試みた。屋内環境の整備に砂場を用いたところ、砂浴びと日中の休息が発現し、徘徊と柵突きが減少した。過度な食糞と新たに発現した過度な羽繕いは放飼再開まで継続したが、再開 2 週間後には収容前と同様な状態にまで改善した。当該個体では収容に伴う環境整備および馴化が不十分であったため、望ましくない行動が発現したと考えられる。鳥インフルエンザの発生状況によって、収容状況が異なるため、日ごろから個体が本来の行動をとりながら過ごせるよう屋内環境を適切に整えるとともに長期収容に馴化する必要がある。